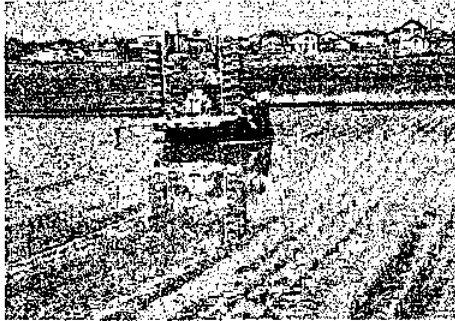


# 付加価値高い農業目指せ



竹炭の活用や付加価値の高い農業を目指し、桑名市で竹炭を使った稲作の試みが始まった。竹炭粉を水田にまいて土壌改良すれば、丈夫な稲に育つと見られる。十二日には、同市友村の試験田で田植えをした。（生田眞士）

桑名の試験田

# 竹炭使って稲作

2009  
2008.5.13

## 富山では木炭で収益

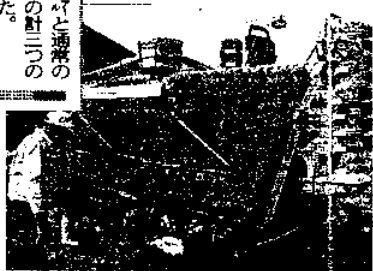
取り組んでいるのは、同市友村の農業経営者さん。桑名市、同市坂井の農業部調整センターにも有志二人、富山県朝日町で木炭を使った水田作りに収益を上げていること（以下）を、竹炭でも同じ効果が得られると考えた。産廃した竹材の再生にもつながるという思いもある。

## ブランド米に育てば

た水田二十ヘクタールと通常の水田二十ヘクタールの計三十ヘクタールを確保した。今後は、竹炭を使った水田は、手押し式の除草機も使って無農薬で栽培。十月初旬にも稲刈りをするという。田植え前と栽培中、収穫後に土壌調査をする。データを収集して栽培方法の確立を図るとともに、農業者を募る。本格実施までに桑名産の竹炭もつくる計画で、竹林の再生に向けてオーナー制度も検討している。

中日新聞 朝刊

## 朝刊 伊勢新聞



田んぼに稲の農家ら「桑名

## 竹炭効果、稲作で検討 土壌に散布し田植え

【桑名】竹炭の土壌改良「竹炭を散布した土地で田植えの効果を確認するため、桑名」を始めた。秋の収穫期までの農家らが十月、先月で土壌のデータをとり、竹炭の効果をさまざま角度から検討する。同市の農家岩谷孝さんら有志が、市内で盛んなタケノコ庄産で廃棄物化している竹の有効活用を狙いに計画。木炭を土壌改良剤として使っている富山県の先進地視察などを重ねて計画を練り、岩谷さん所有の市内友村の田んぼ一反で実験することにした。

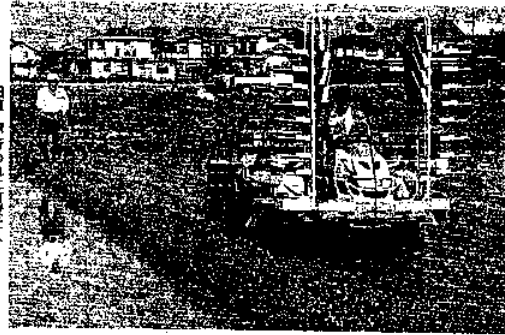
竹炭は、桑名郡木曾町の竹製品製作業者から、実験データを提供することを条件に、無償で分けてもらい、粉末状にした四百五十キログラムを運ばれた。土とよく混ぜ合わせた。この日の田植えには岩谷さんをはじめ農家ら五人が参加。田植え機を使って手際よく稲の苗を植えていった。木炭を使った富山県の事例では、土壌改良に成功した結果、おいしい米が取れるようになり、通常より高く売れるようになったという。

## 丈夫で倒れにくく高値で売れる

竹炭で土壌改良した田んぼで稲を育てる実験が、桑名市友村の農家ら（右）の田んぼで始まった。竹炭の粉を水田にまいて土壌改良すれば、丈夫な稲に育つと見られる。このため、「安心・安全なおいしい米が収穫できれば、桑名のブランドになる」と注目を集めている。市内で手入れが行き届かず荒れたままになっている竹林の再生を考えた同市友村の農家ら（右）の田んぼで始まった。竹炭の粉を水田にまいて土壌改良すれば、丈夫な稲に育つと見られる。このため、「安心・安全なおいしい米が収穫できれば、桑名のブランドになる」と注目を集めている。

## 竹炭で土壌を改良

化学肥料 農薬無し 桑名で稲の栽培実験



田んぼに稲の農家ら「桑名市友村で

農薬無しで栽培した米 たという。は、通常の3倍の価格。安全で安心な農作物で売れることが分かった。の栽培を考えている。田んぼに稲の農家ら「桑名市友村で

岩谷さんは、田の確保を確保。竹炭の粉末を散布し、堆肥を散布し、稲を植える。田んぼに稲の農家ら「桑名市友村で

毎日新聞 朝刊